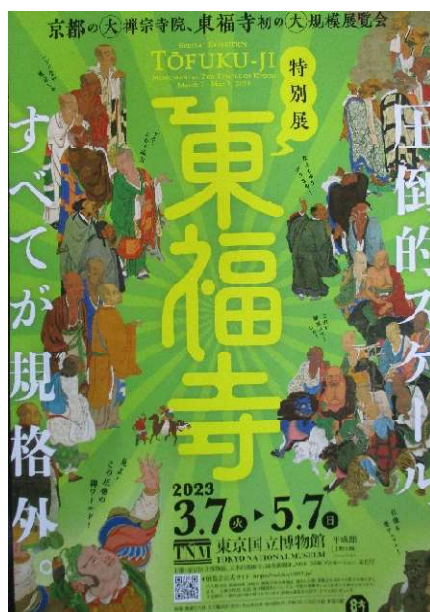


特別展 東福寺

東京国立博物館・平成館（上野公園） 23. 03. 07～05. 07

京都国立博物館（東区・茶屋町） 23. 10. 07～12. 03



京都・東山の「東福寺」は、朝廷の最高実力者・九条道家の初願により、中国で禅を学んだ「円爾・聖一国師（えんに・せいいちこくし）」を開山に迎えて創建され、中世の面影を色濃く留める巨大な建造物の数々は圧倒的なスケールを誇り、その特徴を表わした「東福寺の伽藍面（がらんずら）」の通称で知られている。

本展は、「東福寺」の寺宝をまとめて紹介する初の機会となるもので、伝説の絵仏師「明兆（みんちょう）」による記念碑的大作《五百羅漢図》（ごひゃくらかんず）全幅を修理後初公開するとともに、巨大伽藍に相応しい特大サイズの仏像や書画類も一堂に展覧している。

東福寺三門入母屋造本瓦葺き



吉山明兆（きつさんみんちょう）《達磨図》 重文 15世紀 紙本淡彩 中
岩山や松樹を背景にした巖窟の中で座禅する朱衣の達磨の姿を画面一杯に描いている作品は、太く力強く伸びやかな墨線が明兆水墨画の特色をよく示していて、宗祖達磨大使のつよい遺志をあますところなく表現している。

無準師範 《無準師範像・全身像》 国宝 1238年 絹本着色 右
本像は、写実に徹した相貌表現や柔らかみのある的確な描線のなかに、像主の端巖さや精神性をよく伝えている。宋代肖像画の最高傑作として、その後わが国の禅僧画制作に与えた影響は大きいものとされている。